

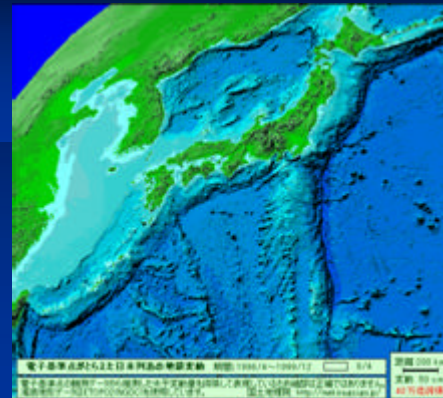
# みんなで創る 地域福祉・地域防災

—災害時要援護者の支援を考える—

大垣市地域福祉推進大会

平成20年10月26日  
板橋区契約管財課長 (前板橋福祉事務所長)  
鍵屋 一

## 押されてひずむ日本列島



国土地理院ホームページより

## 大地震の発生確率

東海地震 30年間で87%  
首都直下地震 30年間で70%

### 30年間の危険率

- 火災で死傷する確率 0.2%
- 交通事故で死亡する確率 0.2%
- 交通事故で負傷する確率 2.0%
- ジャンボ宝くじで百万円以上当たる確率 (年4回20枚ずつ買った場合) 0.3%

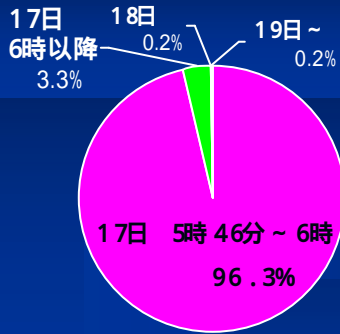


## 濃尾大震災時の大垣市郭町

明治24年(1891)10月28日 (大垣市ホームページ)



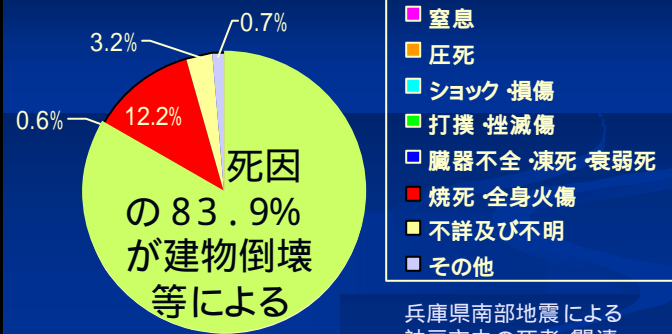
# ほとんどの人が即死だった



兵庫県南部地震における死者(神戸市)の死亡推定時刻(監察医検案分)

(西村明儒ほか、救急医学 1995/10より)

# 凶器はマイホームだった！！

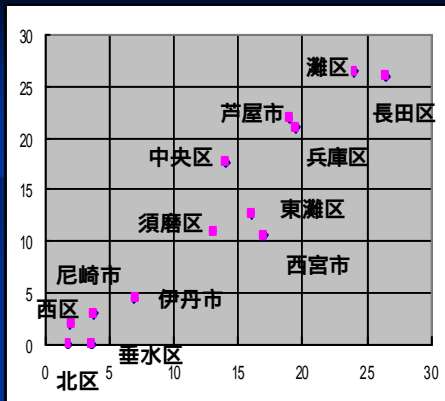


兵庫県南部地震による神戸市内の死者(関連死を除く)の死因分析

(東京大学 目黒公郎教授 資料より)

# 直後出火率

午前7時までの十万世帯あたり出火件数

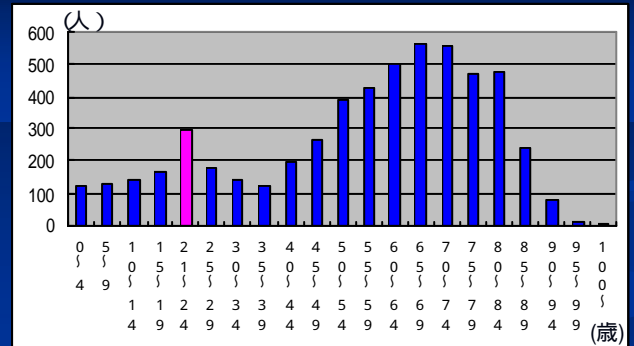


建物全壊率

家が壊れないと火事が出ない！  
消防庁ホームページより

# おとしりと若者に犠牲が集中した！

壊れたのは、古い家や木造アパートだ



年齢別死亡者数

『国民衛生の動向』厚生統計協会 1996年

## 地震対策の優先順位

### 1.住宅の耐震化！



### 2.家具止めなど室内の安全化！

緊急地震速報の活用

トイレなど停電、断水対策

そして、家族全員の安全確認、避難対策

## 解決提案2 (持ち家)

### 低所得者はどうするか？

ただでやる  
しかない！

- 30万円の簡易な補強工事
- 家具の固定も一緒にやる

全国で1000万棟 = 3兆円で  
地震被害は激減する！

## 解決提案1 (賃貸)

### 賃貸住宅はどうか？

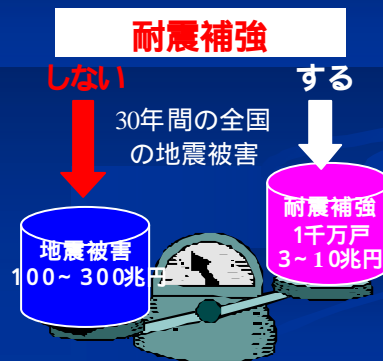
古い賃貸住宅に  
入る人が少なくなる

耐震性を  
公表する

- 大地震の死者、けが人、火災が減る
  - 耐震補強や建替えが進み、  
地域経済が活性化する
- 公費を使わず、強いまちになる！

## 耐震補強の効果

効果的な長期投資である！



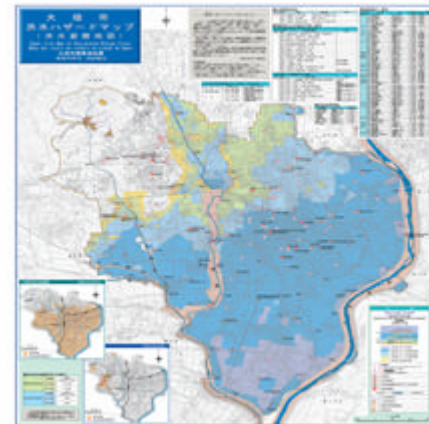
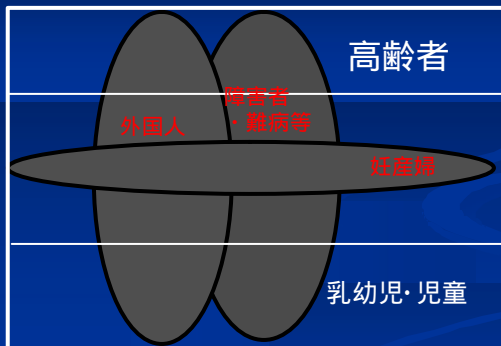
## 要援護者の支援



## あるボランティアからのメール

仮設の多くが和式トイレで  
つかまるところもないので、  
ある後期高齢者が便器に  
はまって汚物まみれになっ  
てもがいていた……

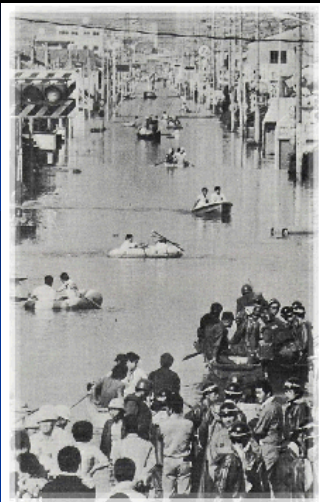
## 災害時要援護者とは？



昭和51年豪雨

墨俣町

(大垣市ホームページ)



## 要援護者支援の考え方

多様で、しかも変化  
誰もが災害時には要援護者になりえる

支援体制が不十分



すべてを対象にできない 重点化  
保護には限度がある 自立の支援  
行政任せにできない 地域総ぐるみ

## 個人情報の壁を破る

要援護者情報を共有する  
個人情報  
は人を幸せにするために使う！

国のガイドライン：平常時から要援護者の個人情報を共有して要援護者対策を進めるのは、明らかに要援護者の利益である。

## 災害時要援護者情報の把握

民生委員等による同意の取り付け  
(安城市・豊田市など)

・災害時要援護者の8割程度の同意  
・町内会、自治会の支援で、ほぼ10割同意の地域も出てきた・

郵送で半数以上同意の調布市は驚異的！

統合GISによる情報共有化  
(横須賀市)

・福祉部局が災害時要援護者情報を入力し、消防防災部局が活用

## 要援護者のカーン集め (松本市)



## 要援護者支援プラン (1)

### 要援護者対策の「肝」

### 「減災」のためのプラン

要援護者の被害を減らすための事前対策を一緒に考える。  
できることから始めよう!

## まず、支援者の家族防災会議

### 目的

支援者家族のいのち、生活、財産を守る

被害想定

家族、地域、学校・職場、通学・通勤路

生活シーン別の対策

いのちを守る

・安否確認、避難方法の共有化

・生活を守るための備え

## 発災時 生活シーンごとの対策

[1]自宅 :就寝時

寝室の安全化

(タンス固定、照明、カーテン)

[2]自宅 :起居時

自宅全体の安全化

(家具固定、ガラス飛散防止)

[3]外出 :学校、職場

安全な場所確保

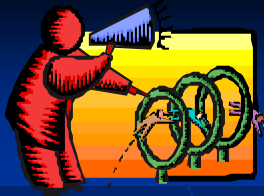
(デスク・テーブルの下)

[4]外出 :路上

頭と目を守る

(カバンや手、丈夫なビル)

## 作戦1 ただで今すぐ!



- ・「三種の家具」の転倒防止
- ・置物注意!
- ・寝室の安全化
- ・テレビも止める

## 避難時の備え 生活シーンごとの対策

[1]自宅避難  
最低限の生活維持  
(トイレ、水、食、灯り、火)

[2]避難所避難  
緊急持出し  
(お泊りセットを安心箱に)

[3]家族生活  
家族の継続  
(片付け、仕事、教育、介護)

[4]社会活動  
救助、消火、助け合い  
(コミュニティ、心の支援)

## 作戦2 日傘雨傘!



- ・猫砂、携帯トイレ
- ・水道水・食料・薬
- ・カセットコンロ
- ・ラジオ、ケータイ電話
- ・新聞紙、レジ袋、風呂の残り湯

## かぐてんぼ隊 (名古屋市)



## 要援護者支援プラン（２）

### 避難の支援

#### 一人ひとりの支援プランをつくる！

要援護者に避難方法、支援者を問いかける。家族、支援者、福祉関係者、地域に問いかける。

#### 支援プランに基づいた訓練を！

プランを作成したら、そのプランどおりに進むか訓練をして、常に見直そう。

## 要援護者の訓練（松本市）



## 避難活動の先進事例

高齢者全員が3分以内に避難できる場所を確保(福岡市春住校区)

・公共、民間施設を問わずに依頼

台風前に溢水危険地域の要援護者救出計画(練馬区)

・台風情報で要援護者情報の収集携帯

## あんしん手帳

・要援護者一人ひとりが、母子手帳のような自分だけの「あんしん手帳」をもとう。



## あんしん手帳の先進事例

在宅人工呼吸器装着難病患者 全員に  
災害用ファイル (兵庫県)

・県の保健師が大学と連携して作成

知的障がいの子 どもたちをもつ保護者  
会が SOSファイル (福岡県)

・40枚ものファイルで詳細に作成

## あんしん箱

要援護者一人ひとりが、緊急時に必要な  
ものを入れた「あんしん箱」を持とう。



## 福祉避難所

災害時要援護者が安心して  
避難できる避難所

福祉施設はあるが・・・福祉  
サービスの継続も大切。そこで、  
養護学校、ホテル、旅館、公民  
館、教室・保健室、体育館の一  
部スペースなど

・バリアフリー、資機材、備蓄など



山梨県福祉避難所訓練 内閣府HPより

## 災害時（１） 安否確認！

自分と家族の身を守る

安全を確保したら、要援護者の安否確認をする。誰に報告しますか？

救出活動は危険が伴うので消防(団)・警察・自衛隊か訓練をした人がのぞましい。

支援者を決めたり、安否確認の準備をすることで日常のコミュニティが活発化する。

## 災害時（２） 相談活動！

声かけ！

大丈夫そうに見えても聞いてみる。

おとしよりや障害者は、遠慮深い。

本当の相談は地域の友人しかできない。すぐに解決できなくても、悩みを共有できればよい。相談ごとは、役所や医療・福祉関係者、ボランティアなどにつなぐ。

## 地域（共助）の役割

### 「こころ」の支援！

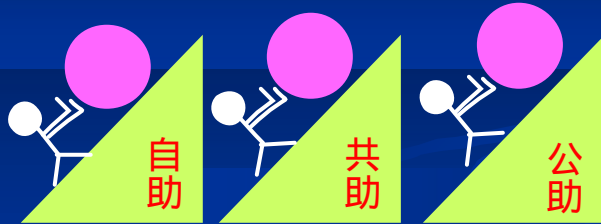
- ・心配され、気遣われるのがうれしい。
- ・モノや手伝いは心を伝える手段。
- ・「こころ」の支援なら誰でもできる。
- ・役に立たない人はいない。

**要援護者こそ、すぐれた「こころ」の支援者になる。**

## 災害への備えが ご近所づきあいの復活へ

- ・要援護者避難訓練で、難病患者さんと地域の交流が復活した！
- ・要援護者の見守りを若い男性に頼んだら、日常から声かけするようになった！
- ・高校生が高齢者の安否確認を日常から行った。
- ・大規模団地の防災会が中心になって、団地イベントを楽しむようになった。

# 自助・共助・公助の失敗モデル



耐震補強  
家具固定など

安否確認  
救助など

避難所  
備蓄物資など

# 地域力を高める 自助・共助・公助

